

創作ダンス授業における学習者によるパフォーマンス評価の研究

Evaluation of dance performance by students in a creative dance class

保健体育科 宮本乙女

目 次

I	はじめに	66
II	目的・方法	66
	1. 研究目的	66
	2. 研究方法	66
III	結 果	71
	1. 中学生が考える「いい動き」	71
	2. 指導者の「指導内容」と学習者のつかんだ「いい動き」の関わり	77
	3. 指導者の評価より	80
	4. 学習者に視点を与えるチェックリストの検討	84
IV	まとめと今後の課題	85

要 旨

中学生が考えるよい動きとは「体全体を使える」「テーマによく合ってなりきって踊る」「空間の移動や使い方」の3つが飛び抜けて多い。そのような見方は、中1も中2もダンスを学び始める前も、最後の作品鑑賞後もほぼ変わらない。しかし、作品鑑賞後には、その作品を作るきっかけとして学んだ課題で、教師から示された技能の観点（ダンスキーワード）を意識した項目が多少ふえ、自由記述にも書かれている。指導者の言葉かけや課題からもたびたび、その点の強化が行われていることがうかがえる。学習者は、課題や指導言語という形で投げかけられる技能の観点を自分の意識に取り込み、他者のダンスを観賞するときには、それが評価のよりどころのひとつとなっていることがわかった。一方熟練した教師が中学生のソロ作品を評価した場合、さらに多くの技能の観点が記述される。学習者に対してどのような技能を伸長する意図を持って取り組むか、パフォーマンス評価の規準表が授業づくりに役立つ可能性を示唆する結果となった。今回15項目で調査を行ったが、「空間」や「動きのつながり」などが2つずつの項目に分かれており傾向がつかみにくかったので、もう一つ大きなカテゴリーにより、10項目のリストを作成し次年度に生かしたい。

I はじめに

スポーツの学習においては、記録や勝敗という非常にわかりやすい形の評価の観点を、学習者と指導者が共通に持っている。しかし、創作ダンスの授業においては、生徒の自由な発想や動きを引き出し、表現するという特性から、その「評価の仕方」が難しいという声が聞かれる。特に指導経験の少ない教師にとって、学習者にどのようなアドバイスをしたらよいか、作品をどう評価し次につなげていくかがわかりにくくなっている。

評価を検討することは、よりよい学習内容や指導の実践に結びつく。「どういう動きがよいのか」「どういう作品がよいのか」というパフォーマンスにかかわる観点が、指導者と学習者にとって共通になり、明らかになれば、ダンス学習における具体的な指導の指針を見出すことができるのではないかと考えられる。

そこで、本研究では、複数の教師が、共通した「パフォーマンス評価の観点」をもって取り組んだダンスの学習について、その成果と考えられる作品の評価を、教師側、学習者側の両側面から比較検討することにより、よりよい授業の探究に資する資料を得ることを目的とする。

II 目的・方法

1. 研究目的

- (1) パフォーマンス評価の観点を共通にした授業を複数校で構成し、指導者と学習者それぞれに、できあがった作品を評価し、双方の評価にどのような違いがあるのかを検討する。検討結果に基づき、より指導者側のねらいが学習者に伝わるダンス学習指導のあり方を検討する。
- (2) 授業の中で、学習者がよりよいパフォーマンスを実現できるように活用できる評価チェックリストの案を検討する。

2. 研究方法

(1) 対象：

調査対象：創作を中心としたダンス課題解決学習を実施している本校中学1・2年生

- ① 2004年10月～12月まで学習した男女 136名
- ② 2005年1月～3月まで学習した女子 90名

比較対象

① 埼玉大学 ダンス課題解決学習を実施した授業におけるソロ作品
検者（熟練した指導者として）

- ① 埼玉大学 細川江利子

② 国際武道大学 佐藤みどり

③ 筆 者

(2) 方 法：

- ① ダンスの技能に関する評価規準（先行研究*1）よりチェックリスト作成
- ② 中学1年生2年生ともに、単元の前後にチェックリストによる「いい動き」に関する調査を実施し、分析。
- ③ 中学1年生では単元のまとめのグループ作品「見立ての世界」中学2年生では「課題の連続からソロへ」についての自由記述評価の分析。
- ④ 「課題の連続からソロへ」における指導言語より、技術に関する指導言語を抽出し、生徒の自由記述との共通点を分析する。
- ⑤ 中学2年生のソロ作品に対する、熟練した指導者3人による自由記述評価分析
- ⑥ 学習者が、よいパフォーマンスをするために活用できる（評価の観点を与えるための）チェックリストを検討する。

(3) 作成したチェックリスト

表1のチェックリストは、佐藤・細川・筆者が作成した評価規準（2003.12, 「創作ダンス授業における学習者の技能評価」, 日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門, 第23回全国創作舞踊研究発表会）に基づいて作成した。評価規準（表2）の表中、プラス面の評価を、中学生にわかるよう、表現を工夫して作成した。

表1 パフォーマンス評価のためのチェックリスト

- ア 身体全体を使える
- イ 頭も、身体が動くのにもなって動く
- ウ 視線がしっかり決まっている
- エ 身体の中心部から動いている
- オ 動きに高い低いの変化がある
- カ 身体をねじる動きがある
- キ 身体の面（前向き後ろ向き、下向き上向きなど）を変える動きがある
- ク 空間（フロアー）の移動が大きい
- ケ 空間（フロアー）の使い方を工夫している
- コ 速い動き、ゆっくりした動き、ストップ、スローなど動きの速さに変化がある
- サ 動きに強い動きや弱い動きやアクセントがある
- シ 動きや形、動きの速さに変化を持たせてくりかえす
- ス 動きのつなぎ方がスムーズで、なめらかである
- セ 気持ちもとぎれずに、動きつづけることができる
- ソ テーマによく合っているオリジナルな動きを作り、なりきって踊ることができる

表2 参考とした評価規準「創作ダンスにおける技能の評価規準」

		マイナス ←	[評価]	→ プラス
身 体	①	<u>〈全身〉</u> ・身体の一部だけ動かし、その他の部分 が使えていない		・頭や指先まで意識し、身体全体を使え る
	②	<u>〈視線〉</u> ・視線が定まらない ・視線が下向きになりがちである		・視線が定まっている
動 き の 変 化 と 連 続	③	<u>〈動きの大きさ (極限)〉</u> ・動きが小さい		・身体の中心部から大きく動いている
	④	<u>〈動きの変化 (多様化)〉</u> ・立ったままの動きが多い ・前向き、横への動きが多い		・動きに高低の変化がある ・体幹を捻じる動きがある ・体幹の面を変える動きがある
	⑤	・空間 (フローア) が広く使えない		・空間 (フローア) 移動が大きい ・空間 (フローア) の使い方を工夫して いる
	⑥	・動きの速さに変化がない		・速い動き、ゆっくりした動き、ストップ モーション、スローモーションなど、 動きの速さに変化がある
	⑦	・動きに強弱やアクセントがない		・動きに強弱やアクセントがある
	⑧	<u>〈動きの連続 (ひと流れ)〉</u> ・動きが単発に終わる		・動きの種類や形、速さに変化を持たせ て繰り返す
	⑨	・動きのつながりが不自然、あるいはぎこ ちなく、動きの流れがとぎれる		・動きのつながりがスムーズで、なめらか である ・気持ちもとぎれずに、動き続けること ができる
	イ メ ー ジ	<u>〈イメージとの関わり〉</u> ・動きがワンパターン		・イメージにふさわしい独自の動きを創 り、なりきって踊ることができる

(細川・佐藤・宮本 作成)

(4) 実践課題

実践した課題は、下表の通りである。いずれもダンスの学習課題を示し、課題から個々のイメージや動きを広げて、作品を創作する「課題解決型」の学習である。1年生(表3-1)は、最初の6時間で毎回違ったタイプの課題を行い、一区切りのあとは、ものを使って「見立ての世界」でグループ創作をして発表会をすることを単元のまとめとした。

2年生は(表3-2)1年生でつけてきた力を生かして、もう少し多方向に運動とイメージの幅を広げるような課題を配した。また、2時間連続授業なので、グループの創作時間を長く取り、しっかりと見せ合いを行った。学んできた課題を連続して「ソロ」を踊ることをまとめとして入れた。さらに、次の年に応援パフォーマンスを作るための課題として、群の生かし方や、作品の構成を学ぶ課題を最後の時間に行った。

表3-1 2004年度の学習計画中学1年生

1～6は50分。8・9, 11・12 は連続授業で90分

時間	課題	内容
1	オリエンテーション	
2	しんぶんし	新聞紙を使って2, 3人組で遊びながらひとながれ
3	走るー止まる	走ると止まるのメリハリを大事に3, 4人で小作品づくり
4	スポーツいろいろ	スポーツのデッサンから6人でメインを大事にして作品作り
5	〃 ミニ発表	クラス内でミニ発表会。ひとグループずつ。
6	VTR鑑賞, 調査	スポーツのミニ発表をVTR鑑賞。他のクラスの作品も。
7	固まるーとびちる	ぎゅっと集まって、ぱっと飛び散る群の課題。
8・9	見立ての世界	色々なものを使って「見立て」で遊ぶ。
10	〃 作品づくり	ものも、身体も場所も大きく使って、グループで小さな作品に。
11・12	練習と発表会	発表会
13	VTR鑑賞, 調査	

表3-2 2004年度の学習計画中学2年生 全て2時間連続授業(90分)

時間	課 題	内 容
1・2	オリエンテーション ダンスダンスダンス	映像によるオリエンテーションと、調査 リズムや、二人組や、ストレッチで踊りつづける45分
3・4	ディズニーランド	リズムに乗ってディズニーランドのデッサンをし、グループごとの作品をつなげて簡単なクラス作品を楽しむ。
5・6	大回り小回り フォークダンス	空間を大きく使いながら、群を意識する課題 南米のフォークダンスで、チャチャチャのステップ
7・8	彫刻の森 発表会	体の高さを変え、集まり方を工夫して表現する彫刻をつないだ 作品づくり。発表会。
9・10	課題の連続からソロ	「捻る回る」「彫刻」「走る跳ぶ転がる」を自分なりにつなげて 創作。3曲から選んで、ソロで発表。作品の調査
11・12	体育大会に向けて	群の構成を生かした課題の連続によるクラス作品。大人数を生かした創作を学び、発表。
13・14	VTR鑑賞、調査	これまで作ったグループ作品を他クラスのものも観賞。

Ⅲ 結 果

1. 中学生が考える「いい動き」

(1) チェックリストによる調査から

用意したチェックリストにより、調査を行った。中1事前事後、中2事前事後の、4種類のデータを下表4と、グラフ1, 2に示した。中1の事前調査に関しては、「いい動きだと思ふもの」をいくつでも選び、その中で一番重要なものに◎という解答方法であったのが、結果を見るとほとんどの生徒がほとんどの内容を選択している状況であった。傾向がつかめないと考えたので、以後は、「大事だと思ふものから3つ」という条件を加えた調査に変更をし、中1の事前調査に関しては、一番重要だと考えてひとつつけた◎のみカウントすることにした。

中学生が選んだいい動きの条件は、「体全体を使える」「テーマによく合っておりきって踊る」「空間の移動や使い方」の3つが飛び抜けて多い。そのような見方は、中1も中2もダンスを学び始める前も、最後の作品鑑賞後もほぼ変わらないことがわかる。

表4 「いい動き」の条件 事前事後調査

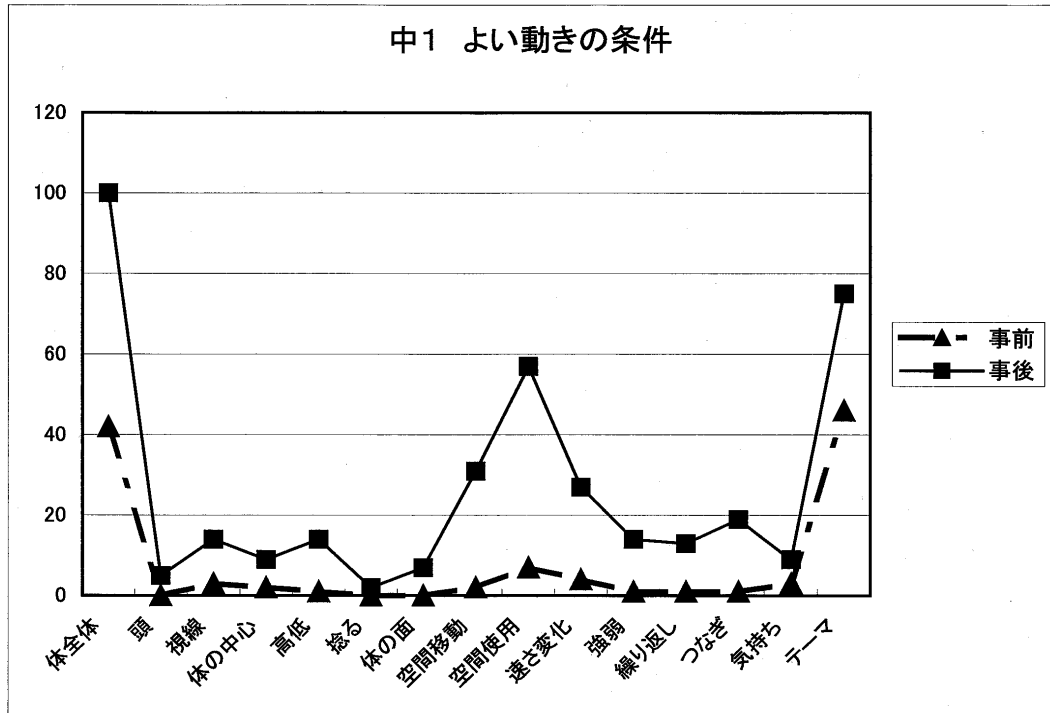
	中1 n=136		中2 n=90	
	事前	事後	事前	事後
	有効回答数			
ダンスについて、どんなことが「いい動き」の条件だと思いますか その中でいちばん大事だと思うものから3つに○をつけて下さい	109	132	84	86
ア 身体全体を使える	42	100	64	69
イ 頭も、身体が動くのにもなって動く	0	5	2	2
ウ 視線がしっかり決まっている	3	14	7	18
エ 身体の中心部から動いている	2	9	5	4
オ 動きに高い低いの変化がある	1	14	7	14
カ 身体をねじる動きがある	0	2	2	3
キ 身体の面（前向き後ろ向き，下向き上向きなど）を変える動きがある	0	7	1	2
ク 空間（フロア）の移動が大きい	2	31	14	23
ケ 空間（フロア）の使い方を工夫している	7	57	42	23
コ 速い動き，ゆっくりした動き，ストップ，スローなど動きの速さに変化がある	4	27	28	11
サ 動きに強い動きや弱い動きやアクセントがある	1	14	18	2
シ 動きや形，動きの速さに変化を持たせてくりかえす	1	13	1	8
ス 動きのつなぎ方がスムーズで，なめらかである	1	19	13	9
セ 気持ちもとぎれずに，動きつづけることができる	3	9	3	23
ソ テーマによく合っているオリジナルな動きを作り，なりきって踊ることができる	46	75	43	47

注：中1事前調査ではいくつでも選び，その中で一番重要なものに◎という解答方法であったので，◎のみカウント

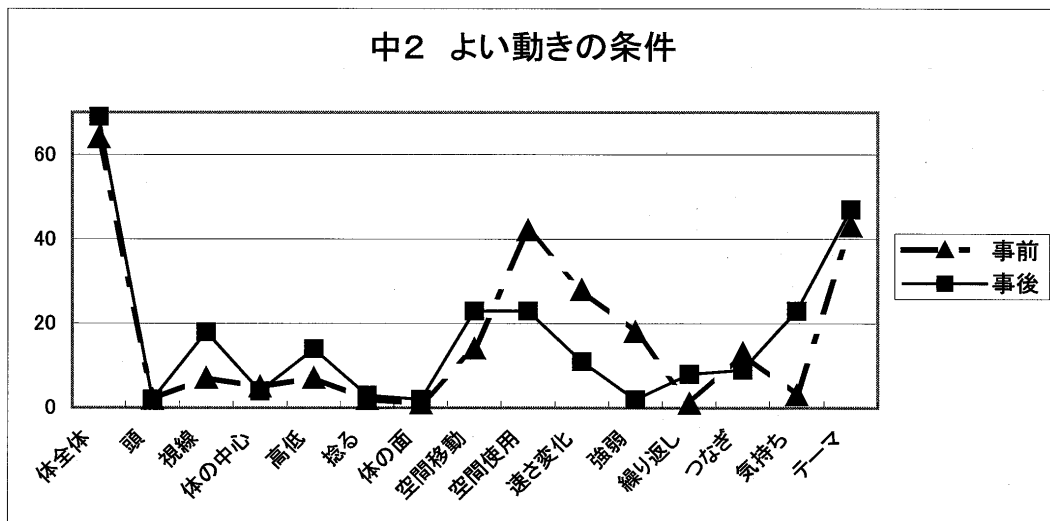
注：有効回答数は，欠席者と条件通りに選択していない解答を（規定数以上の選択 など）除外した人数

注：中2の事後調査は，9・10時間目「ソロテスト」後に行った

グラフ 1



グラフ 2



(2) 自由記述による調査から

チェックリストと同時に、自由記述による調査も行った。中学1年生は、単元まとめの作品である「見立ての世界」を観賞した時間に調査を行い、最優秀賞と優秀賞を選び、コメントを書いた。また、中学2年生は、「ソロ作品」を発表したその日に調査を行い、よかった作品に対してコメントを書いた。

1年生の作品は、群舞であったため、「みんなで声を出して堂々とやっていた」「火や、水など布の色を工夫していた」など、個人のよい動きにとどまらない記述が多くなった。

本研究では、「よい動き」の焦点を絞るため、ソロの作品を評価した中学2年生の記述を詳細に検討することにした。ひとりひとりの記述を、センテンスの数に関わらず分類できる内容で区切ると、ひとりあたりの内容の数は、平均1.7となった。チェックリストによる調査結果と共通する点は、ア「体を大きく使っている」ソ「テーマ」ク・ケ「場所の使い方」に言及しているものが多いことであるが、「堂々とおどる」「恥ずかしがらない」というように、ソロ作品を踊る「態度」に関わる記述も多く上がっていた。

また、そのソロ作品の学習のキーワードとして示していたス・セ「気持ちをとぎらず踊りきろう」という点からの記述も見られた。

表5 よかった作品に対するコメント(中2)

内容数	記	述
2	テーマに上手くそって自分らしさを出していた	ソ
2	びよん②はねるところ。はずかなくてもやるところ	
1	場所を広く使っていた	ク
3	すごく堂々としていて、ちゃんときびきび動いていてよかった。特にISさんのはかわいくてすごかったです。	サ
2	動きに迫力があって恥ずかしがらずできていて良かったです。	
1	IMさんのよく動いていたところが良かったです。	
2	テーマによく合っていて動きもきれいなところ。	ソ
1	大きく動いてていいと思った。	ア
1	全体的に場所を使っている	ク
3	まとまっていた。演技っぽくて短時間なのに完成度がやばかった。ストーリーもあつたし、個性出るナーと思った。見ていてわかる、すごいと思った。	ソ
3	堂々となりきっている、フロアを広々と使い方を工夫している、体全体で表現している。	アクケ
2	大きく動いていた。空間の使い方がいい。	アケ
2	はっきりと堂々とダンスをしていたところ。動きが大きくてわかりやすかった	ア

1	IMさんの動きがわかりやすくいいと思いました。足音とかしてておもしろかった。 ソ
1	IMさんのリズムに合わせて動いているところがよかった。体を大きく使っている人がよかった。 ア
1	IMさんがストーリー性があるって、リズムに合った。 ソ
1	気持ちをときらず踊りきり、それぞれのパートが流れていた。 セ
1	場所を大きく使うのは一番大切だと思いました。 ク
1	まわってものをなげてとって転ぶ
1	よくねじれていたし、表現のしかたがよかった。 カ
5	大きく動いていた人&流れがあった人&堂々と踊っていた人&テーマに内容があった人&オリジナリティーがある動きがあった人 アスソ
1	恥ずかしがらず、堂々と高く跳んだりしたところ オ
1	音とか自分で出したりしてるやつ
3	KNさん、一人で頑張っているところ、リアルなところ、KMさん、体操の終わるところがぴたっと決まってよかった。表情も大切！ コソ
2	KNさん、撃つところとか、すごくよかった。一人でいろんな動きをしていてわかりやすかった。 ソ
3	なりきっている人。大きく動いて、ストーリー性のあるのがおもしろかった。 アソ
1	跳ぶところや顔の表情
1	動きがなめらかだった。 ス
3	フロアを工夫して使っていたり、高低の差が多い、はっきりしているところ。 オケ
1	TNさんのよっぽらいがすごい。IMさんが探検家になりきってて、すごいよかったと思った。 ソ
1	ISさんのおさる
3	体を大きく使っていて恥ずかしがっていなかった。テーマのイメージに合っていた。 アソ
2	ISさん、なりきっていて、すごく堂々としていてよかったです。 ソ
1	ストーリーがよくわかる動き ソ
1	楽しそう
2	大きく体を使った。動きに流れがあった アス
1	全体的にまとまって動いてる。 セ
1	堂々とやっていた。
1	動きがはっきりしていてわかりやすかった
5	曲のリズムに合っていた。はきはきしていた。感情も入れてやっていた。堂々として

	いた。上下の格好が上手かった	サソ
2	KNさんとIMさん、ストーリー性があって、おもしろかった。あとISさんかわいかった。	ソ
1	大きく堂々としていた。	ア
2	堂々としていた。ABC(課題)の変化がはっきりわかった	シ
2	とぎれずにやる、ひとつひとつの動作が大きい	アセ
2	堂々としていた。動きがはっきりしていた。	
2	堂々として体をよく動かし、広い面積を使っていた。	アク
2	広く使っていて、動きが大きい人	アク
1	恥ずかしがらずに大きく動くところ	ア
2	TRさんのソロが場所を大きく使っていてよいと思いました。MNさんのダンスが大きく小さくできてよかったです。	オク
1	四角の中を大きく動いたり、捻ったりとかがいっぱいあるところ	カク
1	IIさんの動きがかわいかった	
2	テーマに沿ってスムーズに動いていてよかった	スソ
2	堂々とやっていた。メリハリをつけて踊っている人はかっこよかったです。ひとつひとつの動きがはっきりしていて、てきぱきやるとよいと思いました。	サ
1	大きくまわっている、YNさん	ク
1	恥ずかしがらなかった	
3	動きにメリハリがあったり、フロア全体を上手く使っていた。それぞれのタイトルにあった動き	ケサソ
1	しなやか	
1	とめるところはしっかりとめ、恥ずかしがらないところ	コ
1	楽しそうに動きがはっきりしていた	
2	大胆な動きやダイナミックな動きを恥ずかしがらずに堂々とやっていた。	
1	TRさん、手足がよく伸びてきれいだった	ア
1	いろんな動きをしていたTNさん	
2	MNさんの具の感じがかわいかったです。大きいのと小さいのとの違いの動きがメリハリがついてよかったです	オ
2	手をしっかり伸ばして回転、ストーリー性を持たせてなりきる	アソ
1	くるくるまわって、飛び跳ねて笑顔だった人	
2	なだらか、動きつづけ、メリハリがあり	セ
1	動きがしなやかで「作品」という感じがしていた	
3	テーマがよく現れていたし、ジャンプとかも大きく堂々としていた。捻る動きとかも	

	個性が表れていた。	ソ
1	TNさん, YNさん堂々としている	
2	動きに自信を持っていて, しっかりとひとつひとつの動きをする。大きく空間を使う	ク
3	MYさん, 花になりきっていた。体とフロアを大きく使っていた	アクソ
2	大きく動いていてよかった。見てておもしろい	ア
2	TNさん, イメージぴったりの動きで身体もたくさん使ってた。	ソ
1	TKさん, 動きのつながりがきれいだった	ス
1	動きがなめらかで続いていたところ。	ス
1	思い切ってるところ。堂々	
1	ぐるぐる回っているところ	
1	MNさんが上手でした。上手にまとまっていた	
2	メリハリがあった, 速さがあった。	サ
2	絶えず動きつづけて, 大きな動きをしている人	アセ
2	楽しそうにやっている人, 動きがワンパターンじゃなくいろいろある人	シ
2	動きがなめらかで堂々と	ス
1	ジャッキーチェンの動きがおもしろかった	ソ
3	彫刻らしくまとまった人, 動くとき大きく動く。テーマに合っている動き	アソ
1	繰り返しているが速さや大きさが違うところ	シ
1	大きく動いていた。	ア
1	よく動いているところ	
1	YNさんのがつながっててワザありなかんじでよかった	ス
1	肘やひざの曲げ伸ばしがはっきりしている	ア

2. 指導者の「指導内容」と学習者のつかんだ「いい動き」の関わり

先に, チェックリストと自由記述によって分析した学習者のつかんだ「いい動き」の内容を, 指導者の示した技能的なポイントとの関わりからも分析してみたい。

単元の学習の中で, 指導者が繰り返し示したり, 強調する「いい動き」に関する評価の言葉がある。また, 指導者が無意識にかけている言葉の中にもそのようなポイントが存在するのではないかと考えられる。実際に, 生徒に授業の目標として示され, 学習カードで自己評価してきた項目と, キーワードとして課題ごとに示してきたポイントを表6にまとめた。

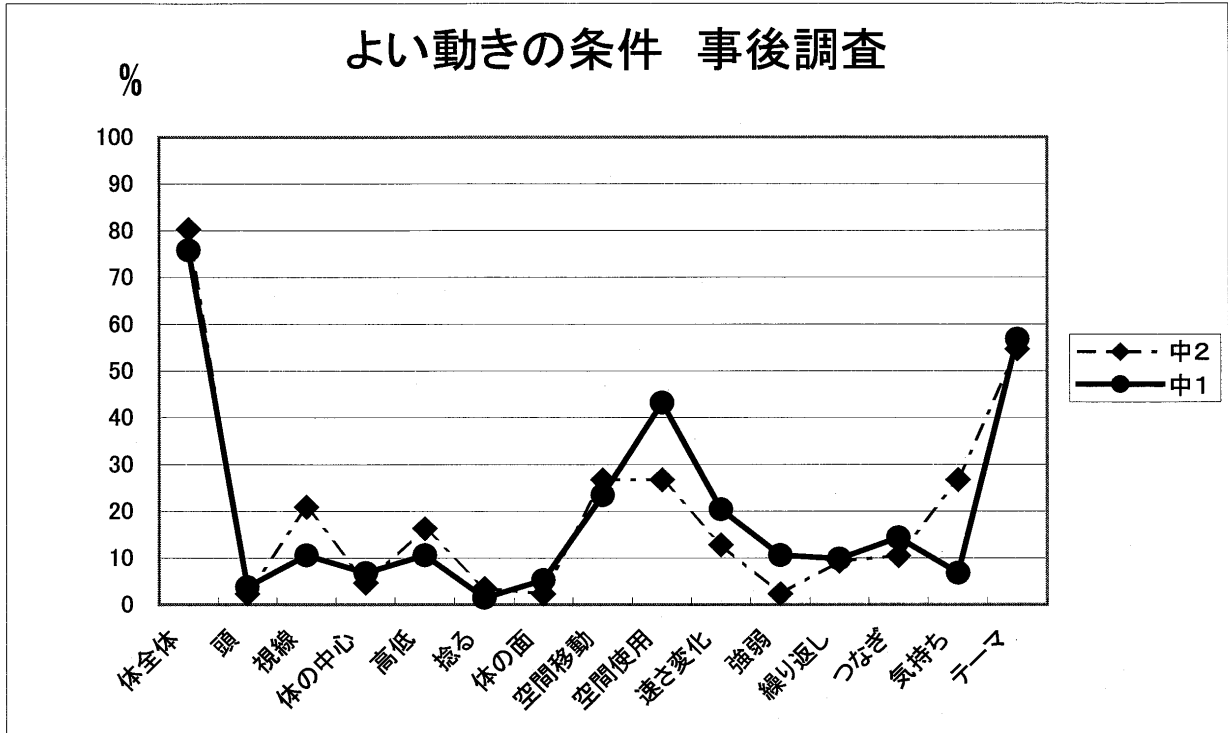
表6 授業の目標と課題のキーワード

中学 1年生	目標（毎時間自己評価）	1. 恥ずかしがらずに堂々と 2. 思い切り身体を動かそう 3. 仲間の個性や表現を認めて楽しもう	
	キ ー ワ ー ド	しんぶんし	ひとながれ
		走るー止まる	メリハリ
		スポーツいろいろ	くりかえし 大げさに
		集まるーとびちる	群の表現
	見立ての世界	ものも、体も、場所も大きく使おう	
中学 2年生	目標（毎時間自己評価）	1. 身体の意識を高め、極限まで使おう！ 2. テーマに独自の動きを見つけよう	
	キ ー ワ ー ド	ダンスダンスダンス	踊りつづけよう
		ディズニーランド	くりかえし 大げさに
		大回り小回り	空間を
		彫刻の森	体が痛いところまで
	課題の連続～ソロ	気持ちを保って踊りきる	

中学1年生の時から毎時間意識してきたダンスの目標の中で、「堂々と」「おもいきり」などは、中学1年生の記述にも2年生の記述にもしばしば見られる。また、見立ての世界には、3時間かけてグループで動きをまとめていった中で、「ものも、体も、場所も」大きく使うことをキーワードとして示した。その結果、できた作品のVTR観賞のあとに、ひとりひとりが選んだ「よい作品」に対するコメント欄では、有効な記述132人の内40人の記述に「キーワードに関わる」コメントが見られた。

中学2年生の自由記述にも、前述表4の通り、1年時の目標に関わる記述や、課題の連続で示したキーワードに関わる記述が見られた。

ここで、再び、チェックリストによる事後調査について、2年生と1年生を比較したグラフを検討した。両学年ともに、ほぼ同様のプロフィールではあるが、2年生では、「セ 気持ちもとぎれずに動きつづけることができる」が1年生より多く選択されており、1年生では、「ケ 空間の使い方を工夫している」が多く、調査をした時に鑑賞したダンスの課題のキーワードが意識された様子を読み取ることができる。



次に、2年生の「課題の連続からソロへ」の授業における指導者の指導言語を分析した。この授業は、90分授業である。そのうち、最初の30分は、ウォームアップと、課題の提示、および、課題を動きながら自分のイメージをわかせる、音楽を選択する時間である。次の30分は個人個人で創作と練習、発表の準備を行う。この時間、指導者は個々にアドバイスをしてまわり、発表の順番や組み合わせを決める。最後の30分が、発表と観賞、まとめである。ここでは、授業中盤30分の学習者の創作・練習の時間に、指導者がかけた全指導言語の内、「技能に関する言葉」を全てピックアップした。

(指導言語には、その他、活動のしかたを示す言語・・・「まず動いてから考えよう」「どんどん練習しよう」等、管理のための言語・・・「順番を決めて」「集まって」等、評価の言語・・・「その動きいいね」等がある。)

表7 指導言語「課題の連続～ソロ」個人にかけた「表現・技能に関する言葉」

・友達と同じようにならないようにそれぞれ違うようにね (ソ)・気持ちとぎらずにやる (セ)・曲の長さをつかんで結構長いから繰り返してね (シ)・滑るのいいと思うよ・あの範囲でこのしかくなのでいっぱい使ってください (ク)・おもいきりやらないと (ア)・あ、いいね中腰がうまいね (オ)・はっきりわかるようにみせないとわからないからね・ポーズしてるんだってわかるようにしないと (コ)・動いて動いて動きつづけて (セ)・動かないとわいてこないよ、たくさん動いてごらん・繰り返しとかがすごいダンス的だと思う (シ)・顔もいいわ・上手い、流れがある (ス)・鳥?いいね、わかるわかる (ソ)・わ

かめ大丈夫よ・ワンパターンでもいいよ・いいね、和の何をやるかだよね。・三味線？中腰、波、花？・彫刻やってるなあってわかれば動いてもいいよ・なるべく友達と違う動きになるように頑張ってるね。個性的に(ソ)・いいんじゃない？体はった演技で(ア)・さっきのすごい上手いと思った、捻る回る見るがよくできてた。・音楽長いからうまくつかってね。体操いいね、見せ場がある。じゃあ思いっきり体使って激しいこうね(ア)・何やるかだよね、あとね。・あ、いいねそういうの、横になったわかめ、縦のわかめ、流れるわかめ(シ)・あめ、いいじゃない、降るところからやる？最後流れていくとか。ちょっとずつ降るとか、ずっとずっとたくさん降るのがある、何でもできそう(シ)・低い、低いはなんだろうね。ちょっと時代劇の？刀。低い・・・は？・踊りの中で上手く流れになったらいいじゃない(オス)・いいかも、上手くつなげてくる(ス)・動いて練習した方が曲の長さをつかめるよ・全部やっても時間余っちゃうくらいだから、繰り返さないと(シ)・スピードあるからいいんじゃない？チーター跳ぶし、捻って敵を見るとかできるし(ソ)・どうする？跳ぶとか動きからやってごらん、捻るとか・酔っぱらい？頑張ってるね、なりきったらすごいと思うよ(ソ)・ドラゴンボールですか？違う？広さはあれくらいだけど大きく使っていいからね(ク)・いいのよ、動けば。イメージに合ってれば(ソ)

表現や技能に関する指導者の言葉は32あったが、キーワードである「気持ちを保って踊りつづけよう」に関する指導言語(「ス 動きのつなぎ方がスムーズでなめらか」「セ 気持ちもどぎれずに動きつづける」の2つ)が11と、多くかけられている。また「テーマに独自の動きを見つける」という2年生の目標に関する言葉(「ソ テーマによくあったオリジナルな動きを作り、なりきって踊ることができる」)が6と、多く、また、「シ 動きや形、動きの速さに変化を持たせてくりかえす」変化や連続性をアドバイスする言葉も多く出現した。

3. 指導者の評価より

中学2年生のソロ作品について、直接の指導者である筆者と、他大学の教師(同様な課題解決学習を長年にわたり行っており、評価の観点についてのディスカッションを筆者とともに十分に行ってきたメンバー)2人を検者として、10作品のVTRによる分析を行った。

中学2年生のソロ作品は、1回の授業の中で、課題の練習をし、3曲の中から自分にあった曲を選択し、イメージをわかせて、即興的に創作した1分程度の作品である。作品としての完成度や踊り込み(練習)が十分でないため、それぞれの個性や特徴が際だつようなものにはならず、全ての作品を分析対象とするのは難しいと判断したため、10作品を選択した。選択した基準は、生徒の相互評価の中で名前の挙がった作品の内、直接指導した筆者の評価が高かった作品とした。

評価方法・分析

- ① 約1分の作品を見る。VTRをとめる。
- ② 約1分間で、「良かった点」「改善点」を自由に記述する。
- ③ 3者の記述を、評価規準に照らして指導者の視点を分析する。

表8に、3人の指導者の評価を示す。

表8 3人の指導者の評価

課題 捻る一まわる一見る、走る高い彫刻一走る低い彫刻一走る中腰の彫刻、走る跳ぶ転がる

NO	タイトル		コメント 教師A	コメント 教師B	コメント 教師C
1	ブルースリー	よい点	テーマにふさわしい動き(跳んだりまわったり片脚バランスなど)。運速の変化。決め技のスピード感。【シソ】	跳び蹴り足を上げると言った大きな動きやカンブー的ポーズがテーマを表しており、印象に残る【ソ】	テーマを表す動きが工夫されていたスピードがある動きが良かった。【ソコ】
	曲:激しい	改善点	動きと動きの間のつなぎ方をもう少しスムーズにすると良いかも。(気持ちちがとぎれないことが大切ですね)【ス】	全体に緩やかでふにやふにやした感じだったので、もっと速い動きを入れたり、びしっとポーズを決める部分を作って、ブルースリーの強さを出したらい。また、下手ばかり見ていたので視線に注意を払うとよい。【コサウ】	もう少し、気持を保って踊り切ったら良かった【ス】
2	シンクロ	よい点	本当に水中にいるような感じ(中腰等)の動き。足のつま先までよく伸びていて美しい。空間も広く使えた。【ソアク】	全体によどみなく動いていた。まわる(その場で、移動しながら)足を上げると言った動きがいろいろ工夫されており、シンクロをよく表現できていた【ソソ】	つま先まで気持が行き届いていた。流れがあった。【アス】
	曲:激しい	改善点	作品の途中でビッ!と止まる場面とかもあつたらもっとシンクロらしくなったかもしれないね。【サ】	さらに体全体をもっと大きくつかい、かつ動きの速さに変化をつけたい。【アコ】	もう少し、動きにメリハリや、速さの変化があると良い。【サコ】
3	ピエロ	よい点	自分がやりたい動きを何度も繰り返したところ。【シ】	最初の「捻一回一見」の間に工夫がみえた。最後の倒れたポーズもよい。	良く動きがつながっていた。ピエロの動きを工夫して、繰り返していた。【シス】
	曲:ユニーク	改善点	両腕を思いっきり伸ばしてみるとか、もう少し全身を使えたら良かったですね。【ア】	途中、「走る」前に素に戻ってしまう部分は何回かあったので気をつけて。もっとひとつずつのポーズをピエロ風に工夫して大きさにやるともつと良い。【セユ】	ピエロのポーズなどをもっと協調して大きく動くとい。【ソエ】
4	ハンター 獲物をしとめる	よい点	獲物になって跳ぶ形がユニークで楽しかった。いろんなジャンプができた。【ソ】	最初の「走る一彫刻」の2回のくり返しで、ハンターが獲物を追う感じが出た。【シソ】	なりきって動いていたところがよい。イメージにあつたジャンプの工夫。【ソ】
	曲:ユニーク	改善点	ゆっくくり、獲物をねらう場面や素早く桜場面など運速の変化がもう少しあれば良かったかも。【シ】	中盤無意味なチョコチョコ走りが多く、動きが小さく曖昧になってしまった。ひとつひとつの動きと間、スピードをもう工夫。【コ】	動きをためるところと素早く飛び出すところのメリハリがあると良い。【コ】
5	ジャングル探検隊	よい点	黒い手袋(?) アイディア。空間を広く使えた。楽しい作品【ク】	ジャングル探検隊の様子をいろいろイメージして動いていた。【ソ】	場面の变化に応じて動きの大きさや速さも変わっていて、良く踊り込んでいた。広い範囲を使っていた。【クコ】
	曲:ユニーク	改善点	一番やりたい箇所(アビールできるどころ)を繰り返してみたら、もっと印象強いかも【シ】	マイムのような小さな動きに終始したので、もっとひとつひとつ体を大きく使って大きさに、速さにも変化をつけて、メリハリをつくりたい。【エコ】	さらに大きさに動くとも良かった【エ】
6	武術ジャッキーチェン	よい点	武術家のいろんなアクションができた。低い姿勢や高い姿勢で攻めている感じが出ていた。【オン】	ひとつひとつのポーズが大きく、武術をイメージさせるよう工夫されていたのが良かった。【エソ】	けるような跳び方が工夫されていたイメージがわいた【ソ】
	曲:激しい	改善点	わざと技のつなぎの動きがもう少しスムーズなら良かった。【ス】	動きのつなぎのところで素に戻り、無駄な動きが入っていたので、流れがとぎれないよう注意したい。【セセ】	ひとつひとつの動きの間で気持がとぎれていた【セ】
7	気になるあのこと ショッピング	よい点	嬉しい感じが飛び跳ねる形によく出ていた。表情もGood【ソ】	ショッピングの楽しいワクワク感が動きや動き方に表れていた。【ソ】	楽しい雰囲気伝わった。ジャンプをがんばっていた。【エソ】
	曲:ユニーク	改善点	もう少し素早い動きがあつたらもっと楽しい作品になったかもね。【コ】	動きの軌跡を工夫してもっと広く場所をつかいたい。【ク】	速さに変化をつけるともっと印象的になったと思う【シ】
8	米田 功	よい点	ストレッチから始まる構成がすぐれている。前後の動き(移動)を強調したところ。【ケ】	体操のポーズを生かし、比較的大きくきびきびと動いていた。【エソ】	準備、本番という流れを上手く表現していた。また、くり返しによって印象つけた。【シソ】
	曲:激しい	改善点	前半のストレッチ部分と、後半の技、チャレンジ部分の運速の差をはっきりつけたらもっとおもしろくなった。【シ】	走とポーズの印象が強く、静的だったので、「走一跳一転」を繰り返すなどして、体操のアクティブ面を一箇所でも入れたら、もっと良かった。前でポーズ、後ろに戻るのくり返しだったが、後ろへの戻りも演技にしてほしい。【シ】	メインの動きが前後の軌跡だけだったので、もう少し横から見せて繰り返すなど変化をつけたい。【ケ】
9	わかめ ~海との共生	よい点	ゆらゆらしている感じが良く出ていた。(髪をの毛の先までも?)【ソ】	最初から最後までとぎれず動き続けた。腕をゆらゆら動かす動きにわかめがなみに漂う様子が表現され、止まったポーズも体をねじるなどふうううと美しくかった。【カセソ】	気持を保って、ずっとわかめの動きに徹していた。床をつかたり、移動したり、とまってもゆれていた。変化をつけて踊れた【オセ】
	曲:静か	改善点	両腕だけじゃなく、もっと体幹からゆらゆらした法がもっとわかめになれた。空間を移動中もわかめのままで。【エソ】	視線が上手方向にあることが多かったがもっと上や正面など工夫した方がよい。【ウ】	どこか一箇所スピードを交えて強い流れになるなど山場をつくつたらさらによいのではない【コ】
10	和の心	よい点	手先足先までびーんと伸びて美しい。中腰の姿勢がまさに和の心。【アソ】	「和」の端正な感じが、直線的な腕の使い方や姿勢の良さ、すわったときのきちんとそろえられたひざなどに表れた。全体に上品で丁寧な演技。【ソ】	和のイメージになりきって踊れた。手先や足先がきれい。背筋も伸びて美しい。【アソ】
	曲:静か	改善点	視線にまで気を配れたら素晴らしいと思う。【ウ】	動きの軌跡(フロアパターン)をもっと工夫したい。最後、前転のあとの体育座りで何を表したかったのか?ちょっと違和感を感じた。【ケ】	素早く、ゆっくりの差をもっとつけたらさらに良くなると思う。【コ】

テーマと関わった評価（ソ）が一番多く記述されているが、そのほか、特に、動きの速さ変化と繰り返し（シ）（コ）、動きのつなぎ方がスムーズ、とぎれない（ス）（セ）も多く、変化と連続に関するコメントも多い。表9のA欄に、数を示した。

前掲の授業者の指導言語（表7 p79）と、学習者のコメント（表5 p74）の分類についても、表9 B欄と、C欄に、比較のために示した。指導者と学習者に共通するのは、テーマに関わる視点が多いことである。

その他、生徒の視点は動きの大きさ空間の大きさに集まり、指導者の方の規準は、それに比べると変化連続に関する内容が多く記述されている。

表9 A：3人の指導者のコメント B：授業者の指導言語 C：学習者のコメント

	A	B	C
ア 身体全体を使える	6	3	20
イ 頭も、身体が動くのにもなって動く	0	0	0
ウ 視線がしっかり決まっている	3	0	0
エ 身体の中心部から動いている	8	0	0
オ 動きに高い低いの変化がある	2	2	4
カ 身体をねじる動きがある	1	0	2
キ 身体の面（前向き後ろ向き、下向き上向きなど）を変える動きがある	0	0	0
ク 空間（フロアー）の移動が大きい	4	2	11
ケ 空間（フロアー）の使い方を工夫している	3	0	4
コ 速い動き、ゆっくりした動き、ストップ、スローなど動きの速さに変化がある	9	1	2
サ 動きに強い動きや弱い動きやアクセントがある	3	5	5
シ 動きや形、動きの速さに変化を持たせてくりかえす	10	3	3
ス 動きのつなぎ方がスムーズで、なめらかである	7	7	7
セ 気持ちもとぎれずに、動きつづけることができる	5	2	5
ソ テーマによく合っているオリジナルな動きを作り、なりきって踊ることができる	23	6	22

筆者は、先の検者2人と共に、埼玉大学教員養成課程のダンス学習初心者による、ソロテストの作品を分析した*2。その際、指導歴の長い筆者らの評価記述と、大学院生がおなじ作品を評価した記述を比較した。そこでもやはり、ベテランの指導者の方が、記述内容が多く、多岐にわたる規準から評価をしている。評価のチェックリストに照らしてみると、指導経験の長い指導者も、大学院生も「極限」に対する評価と「イメージ」に関わる評価が共通に多く見られたが、「変化」については指導歴の長い指導者の方に多く見られた。

4. 学習者に視点を与えるチェックリストの検討

学習者が、よいパフォーマンスをするために活用できる（評価の観点を与えるための）チェックリストを検討する。学習者が3つずつ選択した際に集中した内容を残したい。また、選択される率の低かった項目で、もとの規準表（表2）の中で一緒に枠組みに入っていたものはひとつにまとめる（アとイ、オとカとキ、クとケ、スとセ……チェックリスト（表1）参照）。引用もとの規準表の意図がより伝わるような表現を工夫する必要がある。

指導者が初心者に求める技能として、まず「極限」まで体を使えること、「変化や連続」を工夫し、「気持ちを保って踊りきる」と「イメージにふさわしくなりきって踊る」ことがあげられた。このうち、学習者も、極限、空間、イメージとの関わりには気づいているが、「時間の変化」「力の変化」とそれを「連続」することについては、気づきにくい観点であるように読み取れた。また、調査用紙では体を極限まで使えるという項目は、「エ 体の中心部から動いている」であったが、その項目はほとんど選ばれていない。自由記述と比較してみると「ア 身体全体を使える」が「極限まで動いている」ととらえられているようで数多く選択されていた。実際には「ア 身体全体を使える」は、体の一部だけでなく頭や指先まで意識できることを指していたのだが、筆者が省略した表現を使ったので誤解をまねいたと推察できる。

以上の考えから、10つの項目にまとめ、体全体を使えているということについては、「指先やつま先まで意識して体を使える」、極限まで動いていることを表す表現を、授業の目標で示している言葉に引き寄せて「自分の精一杯の力で大きく動いている」というように、変更してみる。

表10 来年度に試行するチェックリスト案 () 内は今年度の項目

ア	指先やつま先まで意識して体を使える (ア身体全体を使える イ頭も、身体が動くのにもなって動く)
イ	視線がしっかり決まっている
ウ	自分の精一杯の力で大きく動いている (エ身体の中心部から動いている)
エ	高低の変化や、体を捻る、体の面を変えるなどの動きがある。 (オ動きに高い低いの変化がある カ身体をねじる動きがある キ身体の面 (前向き後ろ向き, 下向き上向きなど) を変える動きがある)
オ	空間の移動が大きい, または工夫している (ク空間 (フローア) の移動が大きい ケ空間 (フローア) の使い方を工夫している)
カ	速い動き, ゆっくりした動き, ストップ, スローなど動きの速さに変化がある
キ	動きに強い動きや弱い動きやアクセントがある
ク	動きが単発ではなく, 変化を持たせてくりかえす
ケ	動きのつなぎ方がスムーズで気持ちをとぎれず動きつづける (ス動きのつなぎ方がスムーズで, なめらかである セ気持ちもとぎれずに, 動きつづけることができる)
コ	イメージにふさわしいオリジナルな動きを作り, なりきって踊ることができる (ソテーマによく合っているオリジナルな動きを作り, なりきって踊ることができる)

IV まとめと今後の課題

本研究では、ダンスを学んだ中学生が、授業の中で、どんな動きをよいと考えるか、について、調査と考察を行ってきた。あらかじめ、技能の評価規準として提案されている先行研究に基づいた分類に当てはめてみると、「体を大きく使える」こと「テーマによく合ってなりきって踊る」こと、「空間を大きく工夫してつかう」ことが大事だと思う学習者が多かった。指導者の指導言語や、作品評価の文章からは、それに加えて「変化」と「連続」に関わる言語が多くなっている。学習者は指導者の示すその課題のキーワードや、指導言語による影響を受けながら技能の観点を取り込み、評価の際によりどころとしている様子が見られた。

今後、さらに学習者に、技能の向上をうながすため、また、指導者がアドバイスの観点を持つために、技能評価のチェックリストをわかりやすく、活用しやすいようにしていく必要があると思われる。今後の課題としたい。

補足：本研究は、平成16年度科学研究費補助金（奨励研究）の、指定を受けて行ったものである。

- *1 細川・佐藤・宮本, (2005)「創作ダンス授業における学習者の技能評価－技能評価規準作成の試み－」, 舞踊教育学研究 第7号掲載の評価規準評をもとに, 作成した。
- *2 細川・佐藤・宮本 (2004)「創作ダンス授業における学習者の技能評価(2)」第24回全国創作舞踊研究発表会 研究紀要 日本教育大学協会全国保健体育・保健研究部門